

修士論文（要旨）

2009年1月

高齢糖尿病患者の生活満足度に関連する要因

指導 柴田 博 教授

国際学研究科

老年学専攻

207J6010

高橋光子

目次

I	はじめに	1
1.	研究の背景	1
2.	先行研究	2
3.	研究目的	3
4.	作業仮説	4
II	研究方法	4
1.	調査対象	4
2.	調査方法	4
3.	調査期間	4
4.	調査内容	4
5.	分析方法	5
6.	倫理的配慮	6
III	結果	7
1.	性別にみた対象の属性 (カテゴリー変数)	7
2.	性別にみた対象の属性 (連続変数)	7
3.	独立変数の区分別L S I Kの平均値と標準偏差(カテゴリー変数)	8
4.	独立変数とL S I Kの相関(連続変数)	9
5.	L S I K得点に対する独立変数の関連	
	— 一般線形モデルによる多変量解析—	9
IV	考察	11
V	まとめ	13

参考文献

付表

1. 研究背景

人口の高齢化とともに高齢者の糖尿病は増加している。平成 19 年(2007 年)度の糖尿病実態調査によると 70 歳以上では糖尿病が強く疑われる人、可能性を否定できない人は 45.6%にも達する。高齢期糖尿病治療、療養においては、合併症を予防し、生命の量から質へと生活の質を保ち、健康寿命をはかり、その人らしい自立した満足感のある生活を送ることにある。しかし高齢糖尿病患者は心理的、社会的、経済的問題など生活全般への負担、また同居か独居等の世帯形態から、家族サポートの低下等と生活の質に問題を有することが多いと考えられる。先行研究においても、ADLが高い、社会的ネットワーク、ソーシャルサポートがある等が生活満足度の関連要因⁹⁾¹⁰⁾¹²⁾¹³⁾であり、一方生活満足度の低下要因として糖尿病の負担感の要因とされる、ADL低下、高血糖、視力障害、インスリン、経済的余裕がない¹¹⁾等が報告されている。しかしまだ十分に明らかにされていない生活満足度と同居か独居かの世帯形態、他疾患、社会参加、患者会参加などとの関連を検討する必要がある。

2. 研究目的

糖尿病があっても、身体要因以外の因子により生活の質の緩和、維持、向上ができ糖尿病を一病息災と老いを肯定的に捉え、生きがいと満足感のある人生、生活を送れることの意義は大きい。本研究は高齢糖尿病患者の生活満足度に関連する要因を明らかにすることを目的に行った。

3. 研究方法

1) 調査対象、方法

東京都老人医療センター内分泌科に通院中の、自立歩行で明らかな認知機能低下や視力障害のない 65 歳以上の高齢糖尿病患者 56 名を対象とした。男性は 13 名、女性は 43 名であり、家族と同居は 35 名、独居は 21 名であった。調査への同意が得られた 65 歳以上の高齢者に質問紙を用い面接調査法にて行った。調査項目は基本属性、臨床所見(治療法、罹病期間、合併症、併存疾患、HbA1c 値)、老研式活動能力指標、生活満足度(LSIK)、社会貢献活動、社会関連性指標などである。各項目と L S I K 得点との関連を個別に検討した後、従属変数を生活満足度尺度(LSIK)とした一般線型モデルにて L S I K に関連する要因を検討した。

4. 結果

対象者は、男性 13 名、女性 43 名と女性が多く、独居は男性 1 名、女性 20 名と男性が有意に少なかった。1) 社会関連性指標の下位尺度である身近な社会参加が L S I K 得点と有意な正相関がみられた。他者とのかかわり、社会への関心、同居家族内手段的サポートも L S I K 得点を上げることと関連していた。男性は家族内サポート得点が高値であり、女性は家族以外からの情緒的サポート得点が高値であった。2) 社会貢献活動の、患者会の世話役をしている人は、L S I K 得点が有意に高かった($p < 0.01$)。患者会参加群は、不参加群よりも L S I K 得点が低かった。その背景としては、参加群は、独居の高齢者が多く、膝・腰痛有りも 5 割強存在し、介護保険の利用も多かったことがあげられた。3) 多変量解析の結果、L S I K に有意に関連する要因として身近な社会参加があること、糖尿病性神経障害があることがあげられた。身近な社会参加は L S I K 得点を高くした($P < 0.05$)。神経障害は L S I K 得点を低くした($P < 0.05$)。また腰痛・膝痛があることも L S I K 得点の低下と関連する傾向がみられた。下肢末梢のしびれや異常知覚がある糖尿病性神経障害や併存疾患の腰・膝痛は L S I K を低くする要因であった。4) 年齢は高くなるほど L S I K 得点を上げる傾向がみられた。

5. 結語

高齢糖尿病患者の生活満足度を高くする要因は、身近な社会参加、社会への関心、他者とのかかわり、ポジティブ同居内・外的手段的、情緒的サポート、世話役などの役割があること、一方低下させる要因は、糖尿病性神経障害、腰・膝痛があることが示唆された。関連要因を基に、満足感のある生活をおくれるような支援システムの構築が重要と考えられる。

参考文献

- 1) 厚生労働省健康局：平成19年度糖尿病実態調査.
- 2) 厚生労働省保険局：特定健康診査・特定保健指導の円満な実施に向けての手引き. : 148 (2008).
- 3) 厚生労働省：2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験. (2007).
- 4) 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン.日本糖尿病学会編, 南江堂, :170-189 (2004).
- 5) 柴田博他：高齢者の生活の質と居住環境. 日生氣誌, 34 : 31-35 (1997).
- 6) 玉腰暁子他：高齢者における社会活動の実態.日本公衆衛生雑誌,42 : 888-896 (1995).
- 7) 古谷野亘他：都市中高年の主観的幸福感と社会関係に関連する要因. 日本公衆衛生雑誌, 34 : 115-123 (1995).
- 8) 出村慎一他：在宅高齢者における生活満足度に関する要因.日本公衆衛生雑誌, 48 : 356-365 (2001).
- 9) 高橋龍太郎他：地域で生活する高齢糖尿病患者の生活実態の比較分析.
日本老年医学会雑誌, 31 : 404-409 (1994).
- 10) 森下圭子：糖尿病患者の自尊感情・人生満足感・セルフケア能力に関する実態調査—糖尿病患者会参加の影響の検討を含めて—. 成人看護, 31 : 149-151 (2000).
- 11) 荒木厚 他：老年糖尿病患者の糖尿病負担感の規定要因.日本老年医学会雑誌,32 : 797-803 (1995).
- 12) 冷水豊,井藤英喜：高齢者のQOL—高齢糖尿病患者と一般高齢者との比較—.
NANOGIGA, 3 : 754-758 (1994).
- 13) 石井均：患者のQOLを考える. ナースデータ, 20 : 65-71 (1999).
- 14) 高橋光子他：高齢糖尿病患者の家族形態と食事摂取— 独居糖尿病患者における問題点を中心に.
東京都老年学会誌, 5 : 111-114 (1999).
- 15) 高橋光子他：糖尿病「独膳」老人の食生活の質— 糖尿病非「独膳」老人との比較.
東京都老年学会誌, 4 : 82-84 (1997).
- 16) 柴田博：高齢者のQuality of life(QOL). 日本公衆衛生雑誌,43 : 941-945 (1996).
- 17) 古谷野亘他：生活満足度尺度の構造. 老年社会科学, 11 : 99-115 (1989).
- 18) 古谷野亘他：地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力の開発—.日本公衆衛生雑誌,
34 : 109-114 (1987).
- 19) 野口祐二：高齢者のソーシャルサポート：その概念と測定. 老年社会科学,34 : 37-48 (1991).
- 20) 安梅勅江,高山忠雄：社会関連性評価に関する保健福祉学的研究—地域在住高齢者の社会関連性評価の
開発及びその妥当性—社会福祉学, 6 : 59-73 (1995).
- 21) 内閣府：世帯類型に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査結果. : 14-16 (2006).
- 22) 内閣府：平成19年版高齢社会白書. 株式会社ぎょうせい.
- 23) 金 恵京他：高齢者のソーシャルサポートと生活満足度に関する縦断研究. 日本公衆衛生雑誌,
46 : 532-540(1998).
- 24) 安梅勅江：高齢者の社会関連性指標と7年間の死亡率の関係.日本公衆衛生雑誌,53 : 681-687 (2006).
- 25) 内閣府：一人暮らし高齢者に対する意識調査結果. (2002).
- 26) 柴田博：「中高年健康常識を疑う」.講談社選書メチエ, : 109-112 (1994).
- 27) 柴田博他：日本における在宅高齢者の生活機能. 日本老年医学会雑誌, 40 : 95-99 (2003).
- 28) 渡辺修一郎他：高齢者の生活習慣に対する介入研究. GERONTOLOGY, 15 : 221-225 (2003).
- 29) 芳賀博他：在宅老人のライフスタイルと生活の質に関する研究. 老年社会科学,16 : 52-57 (1994).
- 30) 厚生省長寿科学総合研究「老年者糖尿病の長期予後に関する研究」調査. 1997-1999
3:185-191(2004).
- 31) 岡本秀明他：在宅高齢者の社会参加活動意向の充足状況と生活満足度の関連. 生活科学研究誌,
3 : 185-191 (2004).
- 32) 中野忠澄他：高齢糖尿病患者ではいかなる臨床要因が主観的幸福感(QOL)の維持・向上や抑うつ状態
の軽減・改善に寄与するか(2年間追跡研究).糖尿病,49 : 177(2006).